

十勝農協連15年畜産統計

乳牛頭数減も大型化加速 個体販売は過去最高水準の高値

十勝農協連（山本勝博会長）は「2015年畜産統計」（12月現在）をまとめた。酪農は規模拡大が進んだ。生乳出荷戸数は1235戸で前年から56戸減った中で、年間の出荷乳量1001トン以上の大規模農家は29戸増えて314戸となり、全体の4分の1を占めた。個体販売は乳用、肉用ともに過去最高水準の高値となった。 ※文中の増減数は前年比

乳用牛 出荷戸数56戸減 生産量は4.3%増

飼育戸数は3.7%（54戸）減の1386戸、うち生乳出荷戸数は4.3%（56戸）減。搾乳中止農家は前年より20戸増えた64戸で、理由は経営転換が31戸、離農が33戸だった。規模別では年間乳量が400トン以下が36戸と半数以上を占め、中小農家の離農に歯止めが掛かっていない。

乳牛飼育頭数は0.8%（1853頭）減の22万2482頭。経産牛頭数が0.1%（93頭）減の12万4247頭と、ほぼ横ばいなのに対し、育成牛は1.8%（1760頭）減の9万8235頭で減少幅が大きかった。

ただ1～12月の生乳生産量は113万77トンで4.3%増加。1戸当たりの年間生乳出荷量は9%増の915トンと過去最高を更新、初めて900トンを超えた。経産牛1頭当たりの乳量も、379キロ増の9095キロで初の9000キロ台となった。1戸当たりの平均飼育頭数は160.5頭と過去最も多い水準で、農家戸数の減少を大規模化がカバーし、生乳生産を伸ばしている実態がうかがえる。

肉用牛 飼育頭数5%増 交雑種が4戸増

全体の飼育戸数は12戸減の605戸だが、飼育頭数は20万4857頭で5%（1070頭）増えた。種別にみると、交雑種（F1、その他を含む）の飼育戸数が4戸増の125戸で、頭数は16.3%（9665頭）増の6万8955頭。大規模経営農家が肥育牛を増やしたことが要因とみられ、全体を押し上げる結果に。

ホルスタイン種（肉用）の飼育戸数は2戸減の97戸で、飼育頭数は6.3%（6649頭）減の9万8691頭だった。黒毛和種の飼育戸数は2戸減の502戸で、飼育頭数では5.9%（1069頭）減の1万6980頭だった繁殖用牛をはじめ肥育牛、素牛ともに前年を下回った。

個体販売 前年上回る高値 黒毛素牛17%高

乳用、肉用の市場価格は、高値だった前年をさらに上回った。1頭当たりの平均価格は、乳用牛で育成牛が14.1%高い30.8万円、初妊牛が8.2%高い58.9万円、経産牛が4%高い36.7万円となった。

肉用牛の素（もと）牛も高値で、黒毛和種の雌が17.7%高い59.9万円、去勢が17.5%高い69.9万円。F1も雌が17.3%高い36万円、去勢も18.8%高い43.9万円となった。府県農家が離農するなど生産基盤が弱まる中、十勝産の引き合いは強まった。

馬・豚 馬は6年ぶりに戸数前年上回る

馬は飼育戸数が7戸増の177戸で6年ぶりに前年を上回った。飼育頭数は13.6%（114頭）減の725頭だった。

豚の飼育戸数は前年と同じ26戸。繁殖豚は6.9%減ったが、肥育子豚は12.1%増えた。

飼料畑 草地は前年並み1戸当たり拡大

一般草地面積は6万2354ヘクタールで、0.2%（138ヘクタール）減と前年並み。飼料用トウモロコシ面積は2万1808ヘクタールで4.4%（914ヘクタール）増えた。

1戸当たりの平均飼料畑面積は、6.9%（3.2ヘクタール）増の49.6ヘクタール、乳牛1頭当たりの飼料畑面積は前年並みの0.3ヘクタールだった。飼料畑中の飼料用トウモロコシ畑の比率は3.2ポイント増の25.9%だった。

